

TOPICS

金田義行特任教授が第12回海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣賞)を受賞

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構・金田義行特任教授(副機構長、地域強靱化研究センター長)が「第12回海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣賞)」を受賞しました。金田特任教授は、8月22日、総理大臣官邸大ホールで行われた表彰式に出席し、表彰状を授与されました。海洋立国推進功労者表彰は文部科学省、農林水

産省、経済産業省、国土交通省及び環境省が内閣府総合海洋政策推進事務局の協力を得て平成20年度より実施しており、科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を対象として表彰されるものです。



今井田理事・副学長(教育担当)が食品健康影響評価事業等功労者大臣表彰を受賞

今井田理事・副学長(教育担当)が令和元年度食品健康影響評価事業等功労者大臣表彰を受賞し、学長に受賞の報告を行いました。平成15年の食品衛生法の改正により、内閣府に「食品安全委員会」が新設され、今井田理事・副学長(教育担当)は、添加物専門調査会、農業専門調査会、遺伝子組換え食品等専門調査会など

の複数の専門調査会の専門委員として、食品の健康影響評価に関連する化合物のリスク評価を担当しました。特に、添加物専門調査会では6期12年間委員を努め、そのうち2期、4年間はその座長として、食品添加物48品目のリスク評価書策定に貢献しました。この度の受賞は、これらの功績が認められたものです。



バリアフリー支援室特別講演会 ～パラリンピアントークショー～を開催

10月8日、パラリンピアンである河合純一氏、田口亜希氏を招きトークショーを開催。河合氏は1992年のバルセロナ大会から2012年のロンドン大会までの6大会に競泳日本代表として出場し金メダル5個を含む21個のメダルを獲得、田口氏は2004年アテネ大会から2012年ロンドン大会までの3大会に射撃日本

代表として出場したパラリンピアンです。トークショーでは二人の出場のきっかけや苦労したこと、感動したことの話がテンポよく披露されました。来年開催されるパラリンピック東京大会の注目種目や選手などについても情報提供があり、参加者からは応援のコツを教えて欲しいなどの質問もありました。



デジタル化・IoT推進にかかる日独ネットワーキングミーティングを開催

10月10日、創造工学部(林町キャンパス)で、ドイツ連邦共和国のフランホーファー研究所が中心となって進めているGRANITEプロジェクトとの共催イベント「デジタル化・IoT推進にかかる日独ネットワーキングミーティング」が開催されました。令和2年11月までに全3回の開催を予定しており、第1回目の今回は、GRANITEプロジェクトについて知り、

そして日独の企業・研究機関・自治体等との交流促進及びネットワークを創ることを目的として、共同事業等、今後の展開に繋げるための情報交換の場として開催されました。今回のミーティング開催を機に、今後より具体的な分野選定・連携等がなされ、日独の更なる関係促進が期待されます。



GRANITEプロジェクトとは
ドイツ連邦教育研究省(BMBF)は、日本、フランス、アメリカを対象として、2019年6月から研究マーケティングキャンペーン“The Future of Work”を開始し、10のプロジェクトを立ち上げた。このうち、GRANITEは、ドイツと日本の企業・研究者・自治体等のネットワーク形式を通して、主としてIoT分野における応用研究や技術活用の持続可能な日独のネットワークを創り、共同研究・開発や技術移転を促進することを目的としている。



KADAIGEST 10 2019



香川大学
教育学部長
野崎武司
nozaki takeshi

教育は「希望」に関わる仕事だと思っています

教育について、例えば漢字二文字で表すとすれば「希望」かなと思います。希望とは、未来に向けての展望の好ましいあり方でしょうか。子どもたちは普通に自然に希望を持てるものではありません。教育とは、子どもたちに向けて様々な希望の扉を開くような仕事ではないでしょうか。

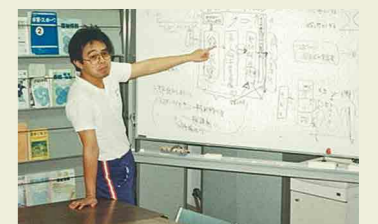
池江璃花子さんを例に挙げます。令和元年には大学生になるはずだった彼女は、高校卒業前に急性白血病を発症し、大きな話題になりました。彼女の発信するツイッターを多くのメディアが取り上げていました。「8年前の今日3月11日、罪のない人たちが大勢なくなりました。違う形ではあるけれど私は全力で生きてます」「私は神様は乗り越えられない試練は与えない、自分に乗り越えられない壁はないと思っています」「東京オリンピックまで

499日 まだまだ諦めないぞー」。若くして才能を開花した彼女が、東京五輪の大舞台を前に与えられた苦難。私にはその重さをはかり知れませんが、そんな境遇で力強く発言できる彼女に畏怖すら覚えます。

いまどき、小学生も中学生も、高校生、大学生も、マイナス言葉が口癖になっているように思います。「ダグッ!」「ウザッ!」「かつたるっ!」「サイアク!」。今、私たちは、学ぶ意味や努力する意味を見出しにくい時代に生きているのでしょうか。それにしても、「あなたにとって、そのサイアクって何?」と聞きたい。池江さんの前で、「私のサイアクは、〇〇です」と口にできますか、と言いたい。壁どころか、ちょっとした障害も取り除こうとも越えようともせず、ウジウジしているのではないかと。こうして考えると、子どもたちに希望を開くという仕事は容易ではないことが分かります。あなたは今、「何かに向けて努力することって、素敵

なことだよ」と心底言える人ですか?大学生の皆さんに心に留めてほしいです。

私は、昭和の高度経済成長期に子ども時代を過ごしました。社会は進歩し、いつか理想が実現するという空気感です。大学時代の仲間にも、理想を謳う青年らしい青年がたくさんいました。それゆえにこそ今の時代の教育の困難を感じるとともに、「希望」の扉を開く教育という仕事の重要性を深く感じます。



大学院2年生の時、スポーツ経営についてゼミで発表。論を立てて議論を尽くせばどんな課題も解決できると信じて大学院に進学しました。

VOICE

創造工学部 学生による「倉敷市真備町・防災まちあるき」 土地の歴史や風土、先人たちからのメッセージを読み解き、災害から命を守るヒントに

昨年7月の西日本豪雨により甚大な被害が発生した倉敷市真備町で、8月11日に地元の小学生とその保護者を対象とした『真備探検隊～真備の成り立ちを探れ～』を行いました。この企画は「まちの歴史と土地の成り立ち、災害との関係」について謎解きをしながら真備を歩き、まちの防災や未来について考える「きっかけ」をつくる目的で開催しました。

私たち防災・危機管理コースの学生は、5月に真備を訪れました。災害から約1年が経過していましたが、真備は復興の最中でした。また災害直後から高齢者の救出や生活支援に尽力された介護事業所『ぶどうの家』の職員の方から直接話を聞くこともでき、「防災を学ぶ学生として、被災地の力になりたい」という思いで取り組みました。

当日は学生14人が、2班に分かれて参加者を案内しました。まちあるきのコースには、山陽道の宿場町であったことを伝える石碑や渡し舟の発着場跡、輪中の遺構も残されており、

これら史跡と災害との関係を参加者に問いかけながら、真備の歴史や成り立ちを紐解きました。また、過去の水害を伝える石碑を立てた先人の思いについても考えました。

真備は『山陽道高梁川の渡し』という古代から交通の要所で、宿場町として発展してきました。しかし、水害によって形成された土地につくられた街は、幾度も水害に遭い、その度に先人が行ったのは、災害に強いまちを作るために、堤を作るなどの対策を行うとともに、過去の水害を伝える石碑を立て、災害を後世に伝えることでした。

参加者からは、「学校では教えてもらえない地域の歴史が知れ、見慣れた地域の印象が変わった。」「地域の危険箇所を探しながら歩け、今後の再建に向けて考えていく材料になった。」「なぜ自分たちが被災したのか分からず、自責の思いで苦しいことがあったが、今回の活動を通じて、被災した理由が分かり気持ちが楽になった」といった感想をいただき、防

災に活かすため、イベント後に自宅周辺の防災マップを作成した小学生もいました。

災害でできた土地に街があるのは真備だけではありません。日本中の多くの街が真備と同じです。災害をわが身のことと考え、土地の歴史や風土・先人達からのメッセージを読み解くことは、災害から命を守るヒントになるのではないかと感じました。また、テレビ・新聞等でこの活動を紹介していただき、多くの人に「防災まちあるき」について知っていただけたと思います。この活動が、他の地域にも広がっていくことを願いながら、私たちはこれからもこの活動を続けていきます。

創造工学部2年 日野田圭祐



川辺本陣跡で川辺宿の歴史について知る。



川に向かって緩やかな坂になっている旧山陽道を歩き、真備の地形を感じる。



河原に降りて、渡し舟の必要性と自然堤防の形成について考えた。



たくさん質問をしながら聞いたことをメモして、自分だけの地図を作っていく。



明治の水害で流された蔵鏡寺の跡に建てられた川辺小学校。ここが避難所に指定されていたことに参加者から驚きの声が上がった。



昭和51年台風17号による浸水の水位を示す石碑。昨年、これを越える約3mの浸水があった。



源福寺を恐れ、明治26年の浸水碑、平成30年西日本豪雨の慰霊碑、明治の水害まで宿場町を守っていた神楽堤跡を見た。



参加者が世代を越えて交流し、幅広い世代が真備について知ることができた。



ついつい雨宿りしたくなるアンダーパスだが、冠水の危険性があることを忘れてはいけない。



まち歩きの後、マップ作りについて説明。



親子でマップを作り、付箋で色分けしながらまち歩きを振り返った。



真備町出身の建築・都市環境コース1年西川奈穂によるまとめ。

INFORMATION

香川大学フォトコンテスト開催 作品募集中!!

- 期間 10月10日～12月27日
- 賞 学長賞1名 (QUOカード1万円分)
広報室長賞1名 (QUOカード5千円分)
アイデア賞2名 (QUOカード2千円分)

■募集作品について
香川大学内(どのキャンパスでも可)で撮影された写真。被写体は風景、建物、人物、サークル・部活動の様子等、なんでもOKです!

■詳しくは香川大学HPまで
<https://www.kagawa-u.ac.jp/hiroba/photocontest/>



from International Office



ちきゅう見聞録



ドイツ

工学研究科
北崎友哉
2018年9月から2019年2月まで
ドイツ・ミュンヘン工科大学に研究留学



所属した研究室は、車を用いた自動走行のための画像解析やシミュレーション、顔認証やコミュニケーションを行うためのロボットを開発しています。私はこの研究室で血糖値センサに用いるプログラムを作成しました。



ミュンヘンはドイツ南部のバイエルン州の州都であり、ドイツ国内では3番目に大きな都市です。治安が非常に良く、住んでいる人たちが親切な人が多いという印象でした。私の住んでいた場所の近くにも大きな公園があったので、毎朝歩いて健康的に過ごせました。



ミュンヘンには美術館や博物館がたくさんあります。美術館は日曜日も開いていて、おまけに1ユーロで入場することができます。絵画の知識が全くない私も、足を運び、絵を眺めているだけで楽しかったです。

read more

